

<分担研究報告>

相互作用と乳幼児の心理・行動発達に 関する基礎的研究

分担研究者 小林 登

「相互作用と乳幼児の心理行動発達に関する基礎的研究」班では、本年度は、昨年度スタートした相互作用に関する基礎的な研究テーマを24名の研究者が夫々掘り下げ数多くの有効な研究成果を得た。以下に研究成果を4つのプロジェクト別に報告する。

プロジェクト1：比較行動学的研究

本プロジェクトでは、相互作用をヒトではない種を対象として比較行動学的に研究している。本年度は、大島ら（テーマ名：サル小脳における神経活性物質の発達）は、胎生4か月、満期及び成体期のヒト近縁のマカクサルを用いて脳の発達と神経活性物質の分布の胎生期からの関係を明らかにしつつあるが、今年度はソマトスタチン、P物質などのペプチドが胎生期初期の小脳の発達に役割を果たしていることを示唆した。糸魚川ら（テーマ名：ニホンザルの初期行動発達）は、野生のニホンザルを組織的に観察し、母性行動不全を分類した。また、その原因について考察した。三吉野ら（テーマ名：高崎山ニホンサル集団における相互作用と行動発達に関する基礎的研究）は、野生のニホンサルの観察から、母猿と小猿の絆形成を明らかにした。鈴木ら（テーマ名：集団の中の個体の行動の自動計測システムの開発）は、オタマジャクシを対象として集団の中での個体の行動を長時間にわたって自動計測するシステムを開発し、他の種の集団内の個体の行動の計測への応用を目指して居る。

プロジェクト2：情報科学的研究

本プロジェクトは、相互作用研究の定量的方

法論の開発を主な目的としているが、本年度は次のような成果を得た。

石井、広瀬、岩田、上田ら（テーマ名：情緒反応を観測するための高速信号処理システムの開発）は、共同して情緒反応を観測するための高速信号処理システムの開発を一步進めた。すなわち、心電図に関して実時間で高速信号処理を行うプログラムを作成した。渡辺ら（テーマ名：ヒューマンインターフェイスにおける音声対話速度の適応化）は、会話におけるタイミングの取り方の相互作用の工学的モデルを提出した。

プロジェクト3：周産期医学的研究

本プロジェクトは、胎児期からの相互作用を産科学的に明らかにすることを目的としている。本年度、水野ら（テーマ名：母体行動が胎児に及ぼす影響）は、母体の急激な体位変換・歩行・映画鑑賞などが胎児の心拍変動に影響を与えることを明らかにした。

中野ら（テーマ名：ヒト胎児発達過程におけるREM/NREM期と口唇運動に関する研究）は、ヒト胎児の口唇運動とREM期、NONREM期と妊娠週数の関係を明らかにする試みを行い、特に口唇運動とNREM期に関係が有ることを見いだした。竹内ら（テーマ名：極小未熟児回復期における養育者の接触と児の行動）は、極小未熟児3例を観察し、児に対する医療及び看護の質的・量的変化を明らかにする試みをした。兼子ら（テーマ名：帝王切開児の新生児期行動特徴）は、選択的帝王切開児を対象として、新生児期の行動に帝王切開条件は影響が見られないことを確かめた。多田ら（テーマ名：極小未

熟児の生後の体重変化)は、体重を指標として早産児の子宮外生活への適応について検討し基礎的データを得た。

プロジェクト4：乳幼児心理行動発達科学的研究

本プロジェクトは、小児科学的、心理学的、行動科学的、保育学的に乳幼児の相互作用を検討することを目的とする。本年度は、白滝ら、(テーマ名：ハイリスク乳幼児の神経行動発達と母子関係)は、ハイリスク乳幼児の神経行動発達と母子関係を検討し、生後56～57週の時点でローリスク児よりハイリスク乳幼児の母親の方が児への身体接触があまり増えないことを明らかにした。二瓶ら(テーマ名：エントレノグラフィを用いての乳幼児の反射とエントレインメント現象について)は、聴覚刺激に対して現れる新生児乳児の体動をエントレノグラフィを用いて検討し、児の反応には、いわゆる原始反射とエントレインメント反応があり二者ではエントレノグラフィで得られるエントレノグラムに差が見られることを確かめた。前川ら、(テーマ名：母子相互作用の確立に関する研究)は、帝王切開児を対象として早期母子非接触が母子相互作用に及ぼす影響を調べ、1か月検診時には母親の児への行動に影響はあるものの、発達とともに差がなくなることを明らかにした。水上ら(テーマ名：サーモグラフィによる乳児の早期愛着に関する研究)は、サーモグラフィでけいそくされる額部皮膚温低下をストレスの指標として10～19週の児を対象として乳児期初期からの児の母親への特別な愛着を定量的に明らかにした。加藤ら(テーマ名：新生児期から生後24か月時迄の健康な乳幼児の発達)は、生後3日から24か月迄の健康な乳児の精神行動発達・気質と家庭環境とを縦断的に経過観察し、24か月時の精神発達に生後6か月、24か月の祖母や母親の児と関わる行動が重要であることを示した。利島ら(テーマ名：乳幼児の対象認知の発達に及ぼす母子相互作用の効果)は、乳児の対象認知の発達が単に「乳児対もの」という2項関係の中で進行するのではなく、母親をかいした3項関係の中で進行することを示唆した。

三宅ら(テーマ名：乳児の気質・母子相互作用と情動発達)は、5か月時における母子間の情動的母子相互作用と12か月時における児の情動表現の特徴を検討し両者の関係を示唆している。巷野ら(テーマ名：乳幼児の相互作用に関する研究)は、乳幼児の相互作用に関する研究を行い、自由遊び場面では玩具が多人数メンバーでの相互作用に大きな役割を演じていることを確かめた。小嶋(テーマ名：相互作用と乳幼児の心理行動発達研究)は、家庭保育と保育園保育の相互作用を検討するための保育園適応アセスメントを作成・実施し、このアセスメントの有効性を確認した。若葉(テーマ名：吃音幼児の母親の子どもとの相互交渉に関する研究)は、吃音幼児の母親の行動を機能的に分析し、正常児の母親に比して吃音児の母親の方が子どもに対して無反応拒否的の反応を示す傾向にあることを明らかにした。

以上、今年度の研究成果を概観した。各々のプロジェクトで非常に有効かつ面白い成果が得られたことにより、本研究班の意義が確認された。最終年度の来年度には本年度の研究を深めて更なる成果を目指していく予定である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



「相互作用と乳幼児の心理行動発達に関する基礎的研究」班では、本年度は、昨年度スタートした相互作用に関する基礎的な研究テーマを 24 名の研究者が夫々掘り下げ数多くの有効な研究成果を得た。以下に研究成果を 4 つのプロジェクト別に報告する。